

妊婦健診は地元、出産は大規模病院

出産までは身近な病院で健診を受け、出産は環境の整った病院で行う「セミオープンシステム」について、山梨大が実施する地域の拡大を検討している。既に始めている県東部、峡東地域に加え、峡北、峡南地域でも始めることを検討。出産を扱う病院が地域にない「空白区」でも、近くの病院で健診を受けられる環境を整え、妊婦の不安や不便さを解消するのが狙いだ。〈青柳秀弥〉



新たに峡北、峡南でも

産科分担制エリア拡大へ

山梨大

妊婦は妊娠初期までは月1程度、後期は週1回程度、病院で健診を受ける必要がある。受診回数は出産まで14回程度だが、県内で出産を扱っている病院・診療所は15カ所だけで、峡北、峡南、県東部の3地域はない。山梨大が導入拡大を検討している「セミオープンシステム」は、地域に取り扱っている病院がない妊婦でも安心して出産できるような仕組み。健診は地域の病院や診療所が引き受け、出産は設備や人員が整った規模の大きい病院の医師が扱う。県内では2008年10月、山梨大が都留市立病院に初め

セミオープンシステムを利用して地元の病院で健診を受ける妊婦
＝甲州・塩山市民病院

産科医不足の解消が図られない中、山梨大は「地域の病

院に産科医を派遣して産科の診療を再開するのは難しい」として、セミオープンシステムにより、妊婦の負担軽減を図っていく考え。今後、峡北、峡南地域で実施する病

院を選定し、調整に入る。両地域に導入されれば、県内すべての地域で地元の病院で妊婦健診が受けられるようになる。山梨大付属病院産婦人科の

平田修司教授は「セミオープンシステムの拡充は今の医師数でできる最善の策。不便な思いをさせないため、妊婦の環境を向上させたい」と話している。

通院の負担減、「空白」解消も

「わりはいつ終わるんですか」とあと、3週間ですかね。セミオープンシステムを導入した甲州・塩山市民病院で、妊娠3カ月の妊婦(31)＝節吹市が健診を受けていた。診察しているのは山梨大付属病院から出向いた女性産婦人科医。この妊婦は出産前の12月まで塩山市民で健診を受けて、山梨大付属で出産する予定になっている。産科医不足の解消が進まない中、出産可能な病院がない地域でも安心して出産ができる仕組みとして、セミオープンシステムは注目されている。2007年10月に塩山市民病院が取り扱いを休止していた、峡東地域では出産できる病院がなくなった。出産できる診療所はあるが、この妊婦は「一人員や設備が整った病院で出産したい」と、一時は甲府市内の病院に通つことも考えていた。しかし、通院には車で30分以上かかる。さらに、県内各地から妊婦が受診に訪れる甲府市内の病院は終日混み合

山梨日日新聞

9月4日 火曜日

発行所 山梨日日新聞社
〒400-8515 甲府市北口2-6-10
電話(055)231-3000
編集 231-3111 FAX 231-3161
事業 231-3133 出版 231-3105
広告 231-3131 販売 231-3132
©山梨日日新聞社2012年

はくばく
The Kokumotsu Company

